

彙報発刊の辞

所長 佐々木達治郎

統計数理研究所は発足以来今や満九年、統計学の急速なる発展の渦中にあつてその地位がようやく江湖に認めらるるに至つたのは所員各位の努力による研究が、Annals, 講究録及び輯報に発表された結果なることを思へば、これ等の研究発表雑誌を整備しその内容、体裁を改善することは有意義のことと信ずる。然るところ講究録及び輯報は従来謄写印刷であつて印刷不明瞭、校正も不備で読者に不便であつたと思うので、これ等を活版印刷とし、且つこの両者を合せて統計数理研究所彙報と名づけた。

最近 20 年間に於ける統計学の発展は著しく、新しい発見が相次ぎ嶄新な思考様式が発達して立派な統計的方法の全体系が完成されつつある。孰れの科学の部門に於ても急速な発展が起るときには短時日の間に全くその様相を変へるに至ることは吾々の目撃する所であつて、統計学も正にその時期にあるものと思はれる。このような時期に於ては今日の最良の技術も明日は尙一層よきものに置換へられるかも知れず、理論と方法に関する未解決の問題があらゆる方面に聳えているのを認めざるを得ないであろう。

この重要な時期にあたつて相つゞ立派な業績の発展に際しては、そのよつて来る思考の過程を洞察し理論の行くべき方向を冷静に考察することが必要である。単なる数学的興味のみによつて進めた理論は実際現象と隔離し有用な統計理論と方法とを提供しない懼れがある。

近代科学の急激な発展に際しては、統計的方法が有力な手段を提供していることを思う時、統計理論を研究する者は実在の現象をよく把握するか又は現象に精通した人と協力して理論と方法とを進めることが必要である。かくして獲られた統計数理的なモデルによれば現象をよく説明し得ると同時に数学的演繹法により尙多くの類似現象の性質をも糾明し得るものと信ずる。研究に際しては発展しつつある理論の追及によつて時勢に後れないことは必要であるが、現象に関する知識の把握に勉め理論の方向を過らないようにすることが肝要である。かくして立派な論文をもつて彙報紙面が飾られることを望む次第である。

昭和 28 年 8 月